

様式第9

「KHKS 0861 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル1）及びKHKS 0862 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル2）の改正について」に対するパブリックコメント（意見募集）の結果について

2026年3月6日
耐震設計規格委員会
委員長 盛川 仁

この度、耐震設計規格委員会が作成を行っている規格KHKS 0861 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル1）及びKHKS 0862 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル2）の改正についてパブリックコメントを実施し、ホームページ上で広く皆様方のご意見を募集いたしました。

ご意見をお寄せいただきました皆様に厚くお礼を申し上げます。

今回寄せられたご意見及びそれらに対する考え方並びにその対応について、耐震設計規格委員会での審議の結果、別添のとおり取りまとめましたのでご高覧のほどお願い申し上げます。

1. 意見募集の結果

ご意見提出数：3件

2. 対応結果

今回いただいたご意見及びご意見に対する考え方・対応内容を別添（PDF形式）のとおり整理し、耐震設計規格委員会において審議の結果、了承されました。

以上

問合せ先：

高圧ガス保安協会 高圧ガス部 高圧ガス課

TEL: 03-3436-6103

FAX: 03-3438-4163

e-mail : hpg@khk.or.jp

「KHKS 0861 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル1）及びKHKS 0862 高圧ガス設備等の耐震設計に関する基準（レベル2）の改正ついて」
に寄せられた意見に対する対応

（注：ご意見及び理由並びにご意見に対する考え方・対応内容は、その趣旨、概要を取りまとめて示しています。）

整理番号	提出されたご意見（理由）の内容	ご意見に対する考え方 対応内容	備考
1	<p>【該当する規格案名及び箇所】 規格案名：KHKS0861（XXXX） 箇所：別表1参照</p> <p>【意見及びその理由】 意見：体裁のミス、誤記と思われます。 内容の再確認をお願い致します。 理由：別表1参照</p>	<p>No.6：下部支柱の補強図ではウイングプレート下端とベースプレートが離れておらず、ベースプレートがダイヤフラムの役割をするため、ウイングプレート下端のダイヤフラムを省略しています。離れている場合（ダイヤフラム補強影響範囲が十分ではない場合）は下端のダイヤフラムが必要となる趣旨の規定となります。ご指摘のとおり誤記であり、以下のように改正時に改めます。</p> <p>誤：離れているおり 正：離れており</p> <p>No.6以外：いただいたご意見の通り改正時に改めます。</p>	
2	<p>【該当する規格案名及び箇所】 規格案名：KHKS0862（XXXX） 箇所：別表2参照</p> <p>【意見及びその理由】 意見：体裁のミス、誤記と思われます。 内容の再確認をお願い致します。 理由：別表2参照</p>	<p>いただいたご意見の通り改正時に改めます。</p>	
3	<p>【該当する規格案名及び箇所】 規格案名：KHKS0862（XXXX） 該当箇所：ページ13、図5.1 該当箇所：ページ100、[図F.3-1]</p> <p>【意見及びその理由】 意見：同一図書内の同じ内容を示す図においてSA（T）の単位が異なっている。 図5.1 SA（T）（m/s²）若しくは[図F.3-1] SA（T）（cm/s²）のどちらかに統一願う。 理由：図を参照するときに、単位を間違えるリスクがある。</p>	<p>原則、SI単位としております。 [図F.3-1]はSI単位で表記すべきところを誤ってCGS単位で表記した図としてしまったため、図5.1と同様に（m/s²）の図統一し、改正時に改めます。</p>	

(別表1)

KHKS0861 (20xx) 該当箇所				意見	判断理由
No.	ページ	章・項等	記載内容		
1	11	6.1	レベル1地震動に係る設計入力地震動の計算方法は、6.1.1及び6.1.2による。。	誤：。。 正：。	句読点の連続
2	38	12.1	適用制限: $10 \leq R/T \leq 100$ 、 $r_o/R \leq 0.8$ 、 $t/T \leq 0.4$	誤： $10 \leq R/T \leq 100$ 、 $r_o/R \leq 0.8$ 、 $t/T \leq 0.4$ 正： $10 \leq R/T \leq 100$ 、 $r_o/R \leq 0.8$ 、 $t/T \geq 0.4$	文字化け及びKHKS0862 (20xx) と不整合
3	44	14 図(a)	B：ブレースの交通部分の中心から貫通ガセット端部までの長さ $b \geq 2D$ とする。	誤：B 正：b	図(a)で示されている記号はBではなくb
4	44	14 図(d)	(上部支柱) ウイングプレート下端と上下部支柱の接続部が 離れている おり、ダイヤフラム補強影響範囲が十分ではない場合はもう1枚ダイヤフラフを追加する。	誤：離れているおり 正：離れており	前後の文脈
5	44	14 図(d)	(上部支柱) ウイングプレート下端と上下部支柱の接続部が離れているおり、ダイヤフラム補強影響範囲が十分ではない場合はもう1枚 ダイヤフラフ を追加する。	誤：ダイヤフラフ 正：ダイヤフラム	図中及び前後の使用名称との不整合
6	44	14 図(d)	(下部支柱) ウイングプレート下端とベースプレートが 離れている おり、ダイヤフラム補強影響範囲が十分ではない場合はもう1枚ダイヤフラフを追加する。	誤：離れているおり 正：再確認願います。(図と記載の説明に不整合があり、説明文が判断できなかったため)	日本語の間違い ※図中ではウイングプレート下端とベースプレートは離れていないように見える
7	44	14 図(d)	(下部支柱) ウイングプレート下端とベースプレートが離れているおり、ダイヤフラム補強影響範囲が十分ではない場合はもう1枚 ダイヤフラフ を追加する。	誤：ダイヤフラフ 正：ダイヤフラム	図中及び前後の使用名称との不整合
8	59	16.1 a) 1)	この算式において K 、 H_l 、 h 、 P_{h1} 、 W_s 、 H_s 及び H_r は、それぞれ次の値を表す。	誤： H_s 及び H_r 正： H_{sh} 及び H_{rh}	算式[式 16.2]に H_s 、 H_r は使用されていない
9	59	16.1 a) 1)	K 8.1.1 に規定する K_{SH} 又は 9.1.1 に規定する $K_{MH}H_l$ 最高液面高さ (単位 mm)	H_l の前で改行が必要	K の説明は K_{MH} で終了している
10	61	16.1 a) 2)	この算式において H_l、h、H、g、α_2、W_2 及び H_2 は、それぞれ次の値を表す。	誤： H_l 、 h 、 H 、 g 、 α_2 、 W_2 及び H_2 正： H_l 、 h 、 H 、及び P_{h2}	算式[式 16.8]に使用されていないパラメータが含まれている
11	72	20.3	配管系に係る耐震設計用許容応力等は、次の a) から e) までに掲げる配管系の種類に応じ、それぞれ当該 a) から e) までに定める値	誤：a) から e) 正：a) から d)	20.3 e) 項は削除されている
12	78	20.5 d) 2)	q_p 基礎杭の先端の地盤の耐震設計用許容応力であって、次の 表(f) の左欄に掲げる基礎杭の種類に応じ、同表の右欄に掲げる算式により得られる値 (単位 kN/m^2)	誤：表(f) 正：表(g)	基礎杭の種類と q_p の値を示している表は表(g)である

(別表2)

KHKS0862 (20xx) 該当箇所				意見	判断理由
No.	ページ	章・項等	記載内容		
1	25	[B.3.1](2)	$\cdot \mu_p = \frac{1}{4C} \left\{ \left(\frac{K_{MH}}{K_y} \right)^2 - 1 \right\}.$	算定式前後の『.』は不要	他の算定式には前後に『.』は記載されていない
2	26	[B.4]	降伏耐力を超える非線形部材は、 非線型 の度合いにより弾性剛性より低減した剛性及び等価な減衰率を有する部材にモデル化し線形応答解析を行なってもよい。	誤：非線型 正：非線形	前後で使用されている用語との不整合
3	27	[B.4.1](4)	設計に用いるせん断力、モーメント、加速度、変位等の応答量 R は振動モードごとの応答を適切な方法で合成して 算出す 。次の式で計算してもよい。	誤：算出す。 正：算出する。	脱字
4	39	[C.2.2.3](1)	$\cdot \sigma_{tBE} = j_B \left(F_V + \frac{4F_H H_2}{D} \right).$	算定式前後の『.』は不要	他の算定式には前後に『.』は記載されていない
5	40	[C.2.2.3](3)	K_{MH} 、 F_b 、 σ_{BO} 及び σ_{tBE} : それぞれ(1)に規定する値	誤： F_b 正：F	算式 [式 C.2-30] に F_b は使用されていない、かつ、[C.2.2.3](1)に F_b は規定されていない
6	73	[C.5.2.1](1)	W_r : 屋根部の全重量 (積雪地においては積雪重量を含む。ただし、適切な除雪又は融雪設備がある場合は低減値を用いることも可能である。) (単位 N) σ_{EIH} : 設計修正水平震度が作用したときの、応力を算定する位置での水平地震動による軸圧縮応力、次の算式から得られる値 (単位 N/mm²)	σ_{EIH} の前で改行が必要	W_r の説明は (単位 N) で終了している
7	79	[C.5.2.2]	$\cdot S_{cr} = S_y.$	算定式前後の『.』は不要	他の算定式には前後に『.』は記載されていない
8	86	[C.7]	塔槽類のノズル部 (重要度 I a 及び I の配管系に接続されるものに限る。) の算定応力等の計算方法は、次の C.7.1 又は C.7.2 に定める。	誤：C.7.1 正：[C.7.1]	付属書において他の箇所は[]付きで引用箇所を示しており、表記の統一がなされていない
9	86	[C.7]	塔槽類のノズル部 (重要度 I a 及び I の配管系に接続されるものに限る。) の算定応力等の計算方法は、次の C.7.1 又は C.7.2 に定める。	誤：C.7.2 正：[C.7.2]	付属書において他の箇所は[]付きで引用箇所を示しており、表記の統一がなされていない
10	86	[C.7.2]	ノズルに作用する荷重に対し、次の a) から c) までに定める種類の応力強さを算定し、 表 C.7.1 に示す値を超えないようにする。ただし、c) については、板厚方向に全断面降伏が生じないこと若しくは貫通破壊及びぜい性破壊が生じないことを確認してもよい。	誤：C7.1 正：[表 C.7.1]	付属書において他の箇所は[]付きで引用箇所を示しており、表記の統一がなされていない
11	94	[E.2.2.1]	次の すべて全て に該当する沖積層の地盤 (粘土分含有率が 20% を超える地盤を除く。) は、地震時に液状化するおそれのある地盤と判定する。	誤：すべて全て 正：すべて	同じ言葉の重複
12	95	[E.2.2.1](4)	σ_v : 地表面からの深さ x 設計深度における 全上載圧 (単位 kN/m ²)	誤：地表面からの深さ x 設計深度における 正：地表面からの深さ x における	前後の文脈
13	95	[E.2.2.1](4)	σ'_v : 地表面からの深さ x 設計深度における 有効上載圧 (単位 kN/m ²)	誤：地表面からの深さ x 設計深度における 正：地表面からの深さ x における	前後の文脈